

公益社団法人日本都市計画学会北海道支部
2020 年度研究発表会
報 告

1. 趣 意

日本都市計画学会北海道支部では、都市計画に関する日頃の研究内容や実践活動を広く発表する機会を設けることを目的とし、令和元年度支部研究発表会を開催しました。発表いただく内容は研究論文に限ることなく、都市・地域づくりの現場における実用性に寄与する実務報告や実践報告も含めたものとし、都市計画に関連する分野の方々の情報交換や交流の機会になることを期待しました。

なお、本年度においては例年のポスターセッションを中核とする本会では三密を避けがたいため、オンラインでの開催、口頭による研究発表といたしました。

2. 概 要

(1) 日 時：2020 年 11 月 28 日（土曜日）13 時～17 時 40 分

(2) タイムテーブル：12:50 オンライン開場

13:00～13:10 開会式

13:10～14:10 基調講演

-休憩 10 分-

14:20～17:10 研究発表

-休憩 10 分-

17:20～17:40 閉会式・表彰式

(3) 運営方法：ZOOM ウェビナーを用いたオンラインによる

<2020 年度研究発表会運営会場>

〒001-0011 札幌市北区北 11 条西 2 丁目 2 番 17 号 セントラル札幌北ビル

一般社団法人北海道開発技術センター4 階大会議室

(4) 参加者：47 名

(講演者 1 名、発表者 15 名、実行委員 12 名、その他学会員 3 名、非学会員 16 名)



開会挨拶小松正明北海道支部長(左)と会場風景(右)

3. 後 援

日本建築学会北海道支部、土木学会北海道支部、日本造園学会北海道支部、北海道都市地域学会、日本計画行政学会北海道支部、日本都市計画家協会北海道支部、北海道地域観光学会、北海道市長会、北海道町村会、北海道開発局、北海道、札幌市

4. 基調講演

【論 題】 with/after コロナ時代の新しい働き方について

【講 師】 岡田美紀子氏

(ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス株式会社人事マネージャー)

【内 容】

我が国では2020年4月のcovid19に係る緊急事態宣言を踏まえて、多くの企業でテレワークが導入されるなど、新しい働き方を踏まえた都市のありかたやライフスタイルが模索されています。そこで、with/after コロナ時代の新しい働き方として、グローバル企業のユニリーバ・ジャパン・ホールディングス株式会社から講師をお招きし、2016年7月1日から導入している人事制度WAA (Work from Anywhere and Anytime) についてご講演をいただきました。



5. 研究発表セッション

発表時間 10分 (発表7分+質疑3分) /人

<論文・発表者一覧>

No.	研究発表タイトル、◎研究代表者(所属)、共著者
1	散歩時の多様な活動に繋がる都市空間の活用資源に関する分析 ◎小宮山葵(北海道大学大学院工学院)、森傑、野村理恵
2	公営住宅入居者の外出行動にみる地域交流の特徴 -人口約5,000人の北海道上士幌町を対象として- ◎澤田昂彬(北海道大学大学院工学院)、森傑、野村理恵
3	北海道の道の駅における空間構成のパターン化に関する分析 ◎岩佐樹(北海道大学大学院工学院)、森傑、野村理恵
4	モバイル情報端末を利用した合流における相互行為の基礎的研究 ◎藤塚紫苑(北海道大学大学院工学院)、森傑、野村理恵
5	自治体の景観計画からみた観光資源としての道路景観の活用に関する課題 ◎松田泰明(国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所)、笠間聡
6	送配電線の地中化計画および事業手法に関する欧米の事例調査 -デンマーク・英国・米国の事例から- ◎岩田圭佑(国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所)、大部裕次、松田泰明
7	趣味縁から見た都心空間のジェントリフィケーションについて ～札幌創成エリアの事例を中心に～ ◎加藤康子(北海道大学大学院 メディア・コミュニケーション研究院)
8	Google Street View を用いた緑視率測定方法の検討 ◎本間理子(北海道大学大学院農学院)、愛甲哲也
9	アドベンチャーツーリズムと縄文遺跡・アイヌ文化の活用—旭川市の例 ◎佐賀彩美(一般社団法人北海道開発技術センター) 原文宏、阿部正明
10	非平常時を考慮した札幌駅交流拠点の情報提供機能に関する研究 ◎井上健太(北海道大学大学院工学院)、高野伸栄

11	<p>公共文化施設における合理的配慮の実践的研究</p> <p>- アートNPOの事業展開手法に着目して -</p> <p>◎大沼亮太郎（北海道大学大学院工学院）、坂口大洋</p>
12	<p>札幌・東京間の交通機関選択における運行安定性の影響に関する研究</p> <p>◎荒屋大虎（北海道大学大学院工学院）、高野伸栄</p>
13	<p>雪と寒さを活かした冬季観光ツアーの開発</p> <p>-北海道中川町の地域創生に関する研究</p> <p>◎日置友幸（中川町観光協会）、高橋直樹、菊田浩司、伊藤徳彦、富田真未</p>
14	<p>琴似空中歩廊ブランドアッププロジェクト『ことにウォールえほん はじまり はじまり』</p> <p>- 琴似エリアで過ごす未就学児のための通路空間の提案</p> <p>◎道尾淳子（北海道科学大学 未来デザイン学部）</p>
15	<p>手稲歩く観光・教育研修ルート創造プロジェクト『HUSpectacle-手稲行列-』</p> <p>- 大学生と教職員と地域住民が大学拠点エリアの地域資源を巡り歩く</p> <p>アウトドアアクティビティの提案</p> <p>◎道尾淳子（北海道科学大学 未来デザイン学部）</p>

7. 研究発表の表彰

賞	論文・発表者（敬称略、◎印は発表者）
支部長賞	<p>公営住宅入居者の外出行動にみる地域交流の特徴</p> <p>-人口約5,000人の北海道上士幌町を対象として-</p> <p>◎澤田昂彬（北海道大学大学院工学院）、森傑、野村理恵</p>
優秀賞	<p>自治体の景観計画からみた観光資源としての道路景観の活用に関する課題</p> <p>◎松田泰明（国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所）、笠間聡</p>
奨励賞	<p>散歩時の多様な活動に繋がる都市空間の活用資源に関する分析</p> <p>◎小宮山葵（北海道大学大学院工学院）、森傑、野村理恵</p>
奨励賞	<p>Google Street View を用いた緑視率測定方法の検討</p> <p>◎本間理子（北海道大学大学院農学院）、愛甲哲也</p>
奨励賞	<p>公共文化施設における合理的配慮の実践的研究</p> <p>- アートNPOの事業展開手法に着目して -</p> <p>◎大沼亮太郎（北海道大学大学院工学院）、坂口大洋</p>
特別賞	<p>雪と寒さを活かした冬季観光ツアーの開発</p> <p>-北海道中川町の地域創生に関する研究</p> <p>◎日置友幸（中川町観光協会）、高橋直樹、菊田浩司、伊藤徳彦、富田真未</p>

以 上